

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：交通需要とモデル	
日付：11月23日（月）曜日、セッション時間：9:00～10:30	
司会者名（所属）：山本俊行（名古屋大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体： 本セッションでは、交通需要の予測と予測モデルから導かれる指標に関する3つの論文発表と討議が行われた。3つの論文は分析対象としている具体的な事象が異なるため、各論文について、それぞれ時間を設けて個別の議論を行った。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(260) 杉木直（ドーコン） 本研究では、交通需要予測において推計誤差をもたらす要因として、人口とGDPの将来予測変動、および、複数交通手段間での価格競争の存在に着目し、それらを考慮した需要予測手法の提案している。このうち、将来予測変動に関しては、変動を5%に設定した妥当性や最終的なモデルの出力の分布の正規性が入力分布の正規性から導かれるのか、との質問があり、設定についてはより現実的な値を設定すべきとの回答があった。一方、価格競争については、考慮している費用についての質問があり、今回の分析では、初期費用等は考慮されておらず、より現実的な価格競争を表現するにはそれらの費用も考慮する必要があるとの回答があった。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(261) 松崎友洋（中央大学） 本研究では、わが国の既存論文の非集計交通行動モデルを対象としたメタ分析により、旅行時間節約価値の推計を行っている。メタ分析では、各既存論文のパラメータ推計精度に基づく重み付けを行っているが、時間価値の推計精度の算出にあたり、時間と費用の係数の推定値が無相関であるとの仮定の妥当性について議論があった。また、時間価値に対する所得の影響について所得データが含まれていない場合にどのように考えるべきかについて議論があった。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(262) 毛利雄一（計量計画研究所） 本研究では、自動車走行距離の価格弾力性と所得弾力性に関してマクロデータを用いた時系列分析により推計を行っている。短期弾力性と長期弾力性の行動論的差異についての質問があり、ここでは四半期データを用いた分析を行っていることから、3ヶ月程度の期間に生じる変化を短期とみなしているとの回答があった。また、分析期間中での構造変化の可能性についての議論があり、今回の分析では考慮していないが、バブル景気の崩壊の影響など、より詳細な分析が望まれるとの意見があった。</p>